



MONTHLY

# かわせみ通信

12月号

2022年12月

Vol.160

発行所  株式会社 東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)  
TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

## 皆様に支えられての42年間でした

かわせみ通信の本欄は「今話題のトピックス」「こんな情報があります」などにフォーカスした記事を扱うというコンセプトで初号より進めてきました。しかし、今月号と来月号は勝手ながら、弊社からのご報告といった内容で、今月は私(田中正廣)の退任に伴う今までの皆様へのお礼、来月新春号では新社長となった市田明からの挨拶を掲載させていただきます。

私は、11月25日の定期株主総会にて社長を退任し相談役となりました。創業者の市田與惣次社長を含めて13名の東海テクノ(旧 東海ボイラ管理センター)に入社したのは、1980年8月(25歳)でした。今の時代のように転職情報が溢れていれば、おそらく他社を選んでいただきたいと思います。当時は昭和55年という、時代が環境法令の充実へ向かい初めた頃で、そこから水質汚濁・大気汚染防止法の強化、伊勢湾総量規制(COD総量規制、窒素りんの総量規制)、ダイオキシン特別措置法、土壌

汚染対策法など、時代とともに法律が施行され、さらには石綿の規制強化もありました。

日々、製造業の皆様からお受けする多様なお問い合わせや、ご発注をいただく仕事が新鮮で楽しく、行政の方々から信頼を得られる面白さもあり、あっという間の42年間でした。今日まで転職せず、67歳まで走り抜けたサラリーマン人生は、皆様への感謝でいっぱいです。少人数の会社だっただけに何でもトライしていく必要があります。前職



弊社HP 沿革より 50年史をご覧ください

では半導体の素材を顕微鏡で覗き込んでいた私が、環境法令だけでなく、計測器の販売・修理(当時メーカーのサービス認定員もいただきました)や買流ボイラの販売など、幅広い仕事ができただことは、素晴らしい経験だったと感激しています。(当時、帰宅が深夜という日が続いたにもかかわらず、体調を維持できたことが不思議なくらいです。)

今まで入社してくれた社員、現在では135名となった社員のお陰で、拡張していく事業を無事に軌道に乗せることが出来たことも感謝しております。今後は、兼任していた(株)南伊勢マリンバイオの社長に専任することとなり、今まで東海テクノでお世話になった皆様とはまた違った業界での仕事になります。

代表は代わりますが、東海テクノをこれからも宜しくお願い申し上げます。本当に永く支えていただき、またご支援いただきありがとうございます。

## ココに技あり! 番外編

### 高専の研究設備を利用できること、ご存知ですか?

～鈴鹿工業高等専門学校 共同研究推進センターご紹介～

鈴鹿高専内には産学官の協力で地域企業や国内の技術力を高めるべく、共同研究推進センター・材料分析室という素材分析に特化した施設があり、広く活用できることをご存知でしょうか?

分析機器も年々高度化が進み、費用も非常に高額となっている中、各企業が機器を揃えていくことも難しくなっています。研究、開発部門向けに、外部設備の利用も検討されてはいかがでしょうか。学校側への委託分析から、技術者の育成後の使用まで使用方法は多岐にわたります。

ご興味のある方は下記HPへのお問い合わせ、または弊社営業員までご相談ください。



#### 分析機器例

透過電子顕微鏡: JEOL製 JEM-2100Plus/HR+EDS	200kV級の透過電子顕微鏡であり、STEM観察、EDS分析も可能 TEM試料作製に必要不可欠なFIB/SEMやウルトラミクロームも整備
収束イオンビーム/電子ビーム加工観察装置 HITACHI製 NB5000+EDS/EBSD	FIB加工装置とFE-SEMとを組み合わせた、FIB-SEM SEMで観察しながら、特定箇所の断面加工、ならびにTEM観察用の 薄膜試料を採取・加工可

その他、走査電子顕微鏡、波長分散型蛍光X線分析装置、X線回折測定装置、ICP発光分光分析装置など様々な分析機器が揃えられています。 <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/rcrc/index.html>

## プチコラム

森川 祐実(環境事業本部 四日市分析センター ラボGr)

冬の間、編み物をして過ごしています。かぎ針編みで小物やぬいぐるみを作っていて、テキストを見ながら2ヵ月かけて完成します。基本的な編み目を繋げたり、作者さんの編み方から新たに編み目を学んだりしています。編んでいくリズムに乗ると楽しいです。たまに飼い猫と毛糸で遊んだりして、のんびりと作っています。糸の色や太さ・素材バリエーションが豊富なので、それらを使って出来あがる作品は同じものを編んでも違ってきて面白いです。1本の糸から形作られていく過程にとってもワクワクするので、これからも作り続けたいと思います。



## 編集後記

先日、鈴鹿高専の研究設備を見学してきました。多種多様な機器が揃えられており、それらを企業が使えることに、非常に驚きました。産学官の垣根を超えて連携していくことで、さらなる技術発展を期待しています。世界情勢もまだまだ不安ですが、来年は平和な世界であることを望みます。(みっちー)

